

政経学部 の設置

政経学部は、一九六〇（昭和三五）年九月三〇日に認可申請を行い、翌一九六一年（昭和三六）年三月一〇日に認可を受けて、政治学科・経済学科（定員各一〇〇人）を設置した。政経学部は、体育学部に次いで開かれた学部であり、総合大学を目指していた本学にとって悲願の学部設置であった。

政経学部設置の目的は、国際的な視野に立ち、西欧の学説を批判検討するとともに、日本伝統の政治的倫理観を持つ人材の育成にあった。

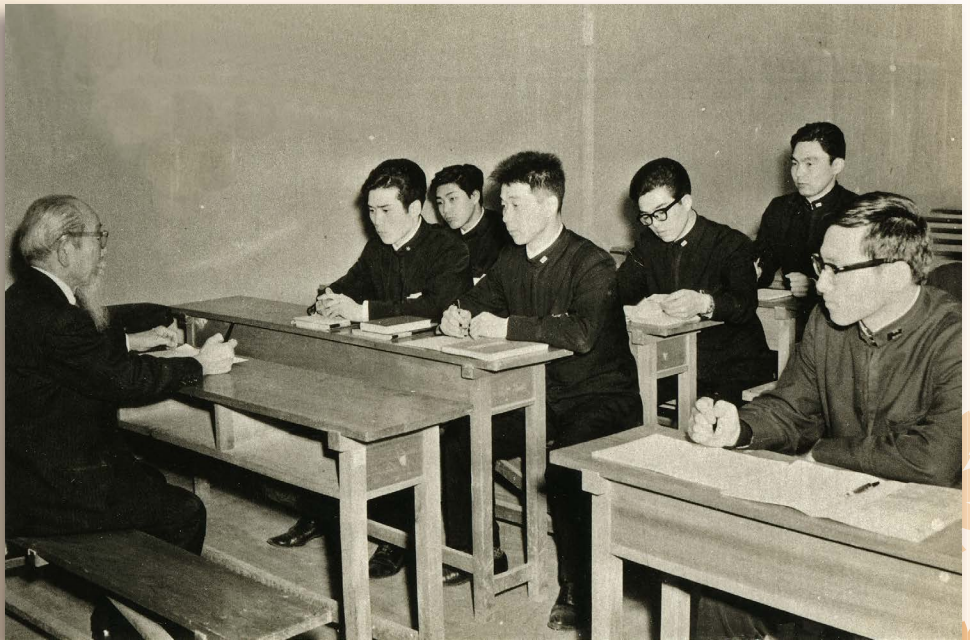
なお、学部設置直後の一九六一年六月二七日、『国士舘大学新聞』を創刊し、今日まで発行を続けている。



1961（昭和36）年6月27日
政経学部開学及び6号館落成を
伝える『国士舘大学新聞』第1号

礎を築いた 教授陣

政経学部設置にあたっては、政治学、経済学、法学など各学界より、第一級の高名な教授陣が招聘された。開設初年度の教授陣を見ると、早稲田大学から中村宗雄（法学博士）、内田繁隆（政治学）、鹿児島経済大学から田崎仁義（経済学博士）、日本大学から宇尾野宗尊（商学博士）らが着任している。その後も一九六四（昭和三九）年には、国際法や外交史で著名な田村幸策（法学博士）を、翌一九六五（昭和四〇）年には、国際政治学会の初代理事長を務め、東京大学名誉教授であった神川彦松（法学博士）を招聘するなど、高等教育機関に相応しい教育体制を整えた。



1964（昭和39）年 田崎仁義教授ゼミナール



1965 (昭和40)年
内田繁隆教授ゼミナル



1966 (昭和41)年 田村幸策教授ゼミナル

新設された 6号館

政経学部設置にあたり、一九六一（昭和三六）年四月五日に六号館（RC五階建）が竣工した。六号館五階には柔道場を設け、一九六六（昭和四一）年一月に竣工する一〇号館（RC地下一階・地上五階建）五階の剣道場の完成まで多くの式典が催された。



1961(昭和36)年 完成した6号館(政経学部校舎)